

令和元年度
阿南町の教育環境について意見交換会

日 時：令和2年1月25日（土） 13時00分から15時20分

場 所：阿南町民会館 大ホール

参加者：64名（富草3名、大下条13名、和合5名、新野40名
天龍村1名、記者2名）

次 第

- 1 開会・進行 岡田事務局長
 - 2 教育長・教育委員自己紹介
 - 3 あいさつ 南嶋教育長
 - 4 資料説明 岡田事務局長
＜検討委員会の答申についてのパブリックコメントと教育委員会の考え方＞
 - 5 意見交換
 - 6 閉会 岡田事務局長
-

＜出席構成員＞

教育長	南 嶋 俊 三
教育長職務代理	林 一 仁
教育委員	猪 切 信 子
教育委員	大 倉 康 生

＜欠席構成員＞ なし

＜出席職員＞

教育委員会事務局長	岡 田 六 久
〃 子ども教育係長	村 山 俊 行

【あいさつ】

○ 南嶋教育長

インフルエンザで、学校もクラスにより学級閉鎖ということもあり、皆さんも予防して気を付けていただきたい。

去年は台風19号の災害があり、被災された方にお見舞い申し上げます。今年は災害のない良い年であるように祈ります。本日は、お越しいただき感謝申し上げます。

始めに私から阿南町の将来における教育環境のあり方について、経過と経緯を説明したいと思います。その後資料の説明、その後フリートークというように進めたいと思いますのでお願いします。

経過・経緯につきましては、私がこの職に就き南部の首長・教育長・職務代理の中で、

検討してきました。阿南一中が統合される52年前から検討されてきているが、52年前特に道路が良くなったら検討するとされてきた。次に今から12・13年前、中学統合の研究委員会というものがあり立ち上げられ、一中・二中の統合が検討されてきた。そこでのまとめとしては一中二中が複式になる前に統合をする。人口減少に対し町として、地域として歯止めするよう取り組んで考えていくとされた。以来今日を迎えている。その経過を踏まえて、全国的な人口減少は小規模校、少人数学級となり阿南町も例外でない。中学校の複式も令和7年であるが、もう1年早くなりそうな感じもある。そんな中、心身共に成長する青年期の大切な時期、社会へ出る準備段階の時に教育環境を整えていくことが必要であると、町長から諮問があり、その諮問を受けて平成29年8月23日に、教育環境のあり方検討委員会というものがあり立ち上げられて、1年半かけて9回にわたり検討された。統合を前提とした検討委員会ではなく、様子を見た上で今後の阿南町の保育園、小学校、中学校の教育環境はどう整えるべきか、検討がなされた。検討委員会だけでなく、南部の教育懇談会、社会教育委員・教育委員会または公民館等の会議で話題にしてきた。その結果、平成30年12月28日に町長へ、教育環境のあり方検討委員会としての答申がされた。答申については、広報とか答申内容の説明会で報告したようですが、それでパブリックコメントを1か月間募集して、全体で34名にお寄せいただいた。その内容を定例教育委員会・臨時教育委員会にて検討を重ね、令和元年12月に行政と教育委員会の調整である、総合教育会議で検討し、考え方について町長に理解をいただいた。統合するについてはいたい2年から3年くらい準備期間がかかるので、それを踏まえ将来の子どもたちのために少しでも早く環境を整える必要があるということで考え方、方向性を報告し、あいさつと経過を申し上げる。よろしくお願いします。

【意見交換】

- 全体としての考えの3番は教育委員会の考えということでいいか。町と合議されたということで町の考えもこうなのかどうか。

答え ○ 3番の考えは教育委員会の考え方・方向性である。ただ総合教育会議で、町長に方向性は理解され、おおかた納得をいただいた。町長としての考えもある。町としてもおおかたのところで支援するとのこと。

- 議論の前提として言いたいのが、『F町の施策への意見』の9番で、「あり方委員会も手段課程をふんだだけ」とあるが、私もあり方委員会のメンバーで2年ほどさせてもらった。私も最初は「ありばい作りの会か。」と考えながら参加した。出て行くうちにそうでないと感じ、それぞれ違う意見を出し合って、自分も勉強し意見を交わした。だから形だけの会ではなかったことを知っていただきたい。
- 同じくあり方検討委員のメンバーでやりました。今の意見と同じであるのと、E資金的問題のことで、あり方検討委員会は趣旨として「阿南町の将来を担う子どもたちの健全なる育成をめざし検討する。」という趣旨を、委員になる時に説明を受けた。この資金的問題に、教育委員会は主眼の割合をどのくらいに考えるか。

答え ○ 教育委員会の中で資金的問題は前半は出て来なかった。話をする中でパブリックコメントの中で話題もあったので、話題として出た程度です。

- 今の話が良く分からないが、はっきり言って損得勘定ではどうなのか。中学を残しておくのと統合をするのを出した上で、とどっちの方がいくらかというのは出ていますか。

答え ○ 試算は出ていますが、それを表に出すことはいかがなものかと思う。それは、金がかからないから一つにするという考え方に行っては、教育委員の考え方と方向と違う。教育委員会としては、中学生の青年期における集団の人間関係に主眼を置いていることでもあります。

- そこに偏った意見が出るのを防ぐために、金額を提示しないというのは分かるが、教育長がお

る会合なので、子どもたちからみた統合問題に関して、生徒数が増えるコミュニケーションが図れるのは良い事であるが、新野から中学校が無くなるのが、地域や阿南町にとって人口が確実に減ると思う。阿南町としてはどうかとパブリックコメントに出したが、今日町長から聞けないがその辺はどうなのか。

- 教育長の答えに思ったが、統合の考えに予算的考えも一部にあったと思う。私の理想も小中学校は各地域にあった方がいいに決まっている。コミュニケーションの話もそうなるかもしれないとわかるが、予算の話で最終的に合併に行くのが危惧される。人口減少で更にお金が入らないこともある。しかし、「これだけお金がかかるから、みんなで理解しよう。」でないと、いくら理想や希望を言っても、最終的にお金が無いから最終的に合併という話しが危惧されるがどうなのか。

答え ○ 1つ目の人口減少についてですが、町の中で定住促進計画や今第6次総合計画の中で、人口減少対策などで取り組んでいるところ、お金が無いから学校を減らすことは教育委員会では一切ない。教育委員会が言うのはお金でなく、教育の内容の問題である。

- 最後のページに生徒数が出ている。これで感じるのは今年全体で99人、令和8年に98人であわなく、阿南町は大したものだ。昨年12月の説明会の時下條中は90人に減ると出ていた。中学生がみんな一緒になって大勢でいろいろやると良い。地域ごといろいろあるが、大勢のところだと子どもが鍛えられて伸びると思う。一中の子も増えたことでありがたい。いろいろなスポーツが高校へ行っているが、阿南第一とか阿南第二とか出身校が出て来ないので寂しい。西部のある保護者の方が、子どもを北部の中学校へ行かせた。そこでインターハイへ行った。まず子どものことを考えて学校を見つけないとだめだ。寂しい町になる。10年前には140人いて、令和元年に99人になって令和8年に98人になるということ。子どものことを考えて、教育委員会に早くやってほしい。町長は首をかけてでもやってもらわないと、いつまでも反対していてもしょうがない。中学校の駅伝に阿南町中学校で出てほしい。子どもにいろいろ経験させてやってほしい。
- 今上の子4歳、下の子2歳がいる。今の21人なら小規模校の良さというのわかるが、子どもが中学へ行くとき6人・8人・10人となり非常に不安だ。正直嫌です。6人は平均でクラス2人。この人数で中学校3年間はありえない。92人の頃に統合してもらって、いろんな可能性がある中で見てもらって子育てをしたいと思っている。
- 大規模の学校から和合へ山村留学できた。大規模校の良さを上の子が6年間見て、下の子が今和合で小規模校で全校で9名いるが、大規模校でできなかった経験をしている。小学校でも中学校でも子どもに必要なのは、勉強や活動に子どもが安心して、守られていて初めて勉学に励め挑戦できる。それが小規模校では保証されている。交流機会を設けなくて大規模校のメリットも得られると感じる。山村留学で中学校の問い合わせもある。山村留学を決める上で、一地域で保・小・中と通えることは大切なこと。新野でも山村留学の話、歯止めをかけれると感じる。一桁の人数だが小規模校をアピールして、人口減少を回避するチャンスだとみている。
パブリックコメントを見ると賛成意見もあるが、不安だという意見もたくさんある。統合ありきでなく、いろんな可能性を考えて意見を重ねてもらいたい。
- 100人いる子の中からインターハイに出た人が何人いる。1人だから寂しい。12ならいい学校だというのはわからない。100人いたら100人が早くなれる学校を望んでいる。大人数の中でもまれて成果を出したい子や、自分の心に深く沈んでいく子もいる。教育長はお金のお話をしたことがないと言っていたが、いい教育をするにはお金が必要です。無責任ではないか。お金のことも今後考えなくてはならなくなる。統合でお金がうまくいくのなら、新野小学校と阿南二中を統合した方がいいと思う。
- 先ほど質問したら教育長は「一切考えてない。」と言ったので安心をした。お金が先に来て統合の問題になると不幸な話である。そこで、なぜ統合しなくてはいけないのか、どんな教委を

すか、「阿南町はこんな教育をする。」と評判になれば、阿南町の学校へ来たいと思う人が増えると思う。どういう教育をするかもっと町民の方と話し合う機会をこれからも多く持っていくしかない。パブリックコメントを見て抜けてると思ったが、中学までの話をしているが、大学までのことを考え、高校から大学へ行きお金がかかる。教育ローンとか借金をして卒業後に返済する状況がある。そこら辺を支援するとか充実を図る必要があると思った。

- 小規模校がいいか大規模校がいいかの話であるが、大きすぎても弊害があるし、和合小学校はだいぶ増えてきたが、同級生もなく複式でも2人学級であった。先生と1対1で煮詰まったりとか、遊ぶ相手がなく寂しいとかで、中学へ行って生き生きしている。それを考えると少なすぎるのも困る。一人では考えつかない意見を友達が言うような、いろんな価値観の子、いろんな家庭環境の子が話をできるのがすごい、いろんな価値観の子が触れあえるのが良いというのが、あり方検討委員会の中の意見でいいなと思った。自分の大規模校に居たことがあり弊害を良くわかっているつもりだが、小さすぎるのも良くないということをもう少し考えてほしい。その上で一中・二中ですが、最後の表のままの状況で行くのであれば、統合した方がいいと思います。人数が増えて行けば統合もせずに万々歳だが、行政としても支援してそうなればもうちょっと待ってもいいと思う。このままずるずる5年・6年行くな、早いこと統合の方が子どものためにいいと思う。
- 昨年、ラグビーのワールドカップで感動した。日本チームが大活躍して感動をもらった。なぜ感動を得られたかという、チームが一つになったから。ワン・チームです。阿南町は今のままだと益々衰退する。そんなことのないように阿南町も一つになる。最も大切な中学期に、多くの人と接し、多くの意見を戦わせて、クラブ活動もあれやこれややって、自分の可能性を見つけ出す。そうすることで阿南町が一つになる。このままではきれいごとと言っても何にもできない。阿南町の子どもの将来を考えた時に、このままいけばもったいなくなる。これ以上先延ばしはあってはならない。ぜひ阿南町を一つにしよう。子どもたちも一つになることが大切だと思う。
- すべての職場がマンパワー不足。日本全国減っている今、少しでも阿南町に残っていただくのが大事だ。阿南町は旧村意識がまだ強い。南部地区は物事すべてに遅れている。皆が心配するのは、新野地域から学校が無くなり、子どもの声がしなくなること。近くでは、小中一貫校・義務教育学校の話もあり研究の一つにしてはどうか。教育そのものとして、今後AIとか入ってくるが、怖いのは人と人の付き合いが無くなって、コミュニケーションが取れなくなるのではと心配である。真実を見つめれる子育てが必要と思う。
- 感じたことは最初から合併ありきである。合併とは2つあるものを1つにすること。1つにしないで2つで学べる方法がある。足して2で割って今の教育施設をそのまま使えば、新たな校舎入らない。二中が一中へ行くという話だと送迎の話になるが、上から下へ行っても下から上へ行っても大差はない。そういう方法もある。メリットは莫大な金を使って建物を作るとかグラウンドを直すとかでなくて、小学生に魅力のある施策をとってもらった方がいいと思う。過疎が止まるのはいつか。過疎が止まった時点で天龍・泰阜・下條と大きな範囲で合併した方が投資価値がある。二中が無くなって新野が益々衰退したら、次は阿南高がなくなるそうしたら寂しい話だ。だから足して2で割ってバスが上がってくる。その時に今新野が考えることが皆さんにも起きる。そういう方法もある。
- 大人数がいいとか話があるが、僕のクラスは12人で現状よりは多く、飯田の方の学校より少ない。高校へ行って大人数での人間関係もあったが、今お盆など帰ってきてクラスで集まって少人数でしかできないことがある。少人数で良かったと思う。高校へ行けば必ず大人数になり仲間も増えるので、中学が大人数の方がいいのは違うと思う。部活については、少年野球、空手、バトミントンなど社会教育があるのでそこでやって高校へ行ってから新しいことをすることもできる。20代で新野にいたが、中学が新野に無くなったら新野にいない必要はない。新野に二中を残したいと思う。
- まず今回の教育委員会のやり方について、教育というのは3年だけでなく成人になるまで責任

があり、子のために働かなければならない。親は自分の子どもの将来を30歳くらいまでを考えて、子どものための教育を考えてほしい。中学校の統合問題だけのことなら教育問題の考え方としては間違っていると思う。自分の子どもの将来を考えてないと教育の問題は解決しない。今回のあり方検討会の中に、何となく中学の統合問題に集約されているが、高校や就職、そこまで考えてあり方検討会を進めて行ってほしかった。

もう一つどこの中学へ行こうが親が決定する義務があります。どんな場合でも子をどこの中学へ行かせるかは親が考えるべき。阿南町の中学がどうであろうと、学校を親が選んでくるのだから、阿南町の教育により転入してくる人もいるし、出て行く人もいると思う。その根本的な問題をきちんとした方針を出していかないと解決しない。統合については、最終的には、当事者である親が意見をまとめて町に要望していかないと、結局、押し付けであり選ばれる学校にはならない。

- 阿南町が一つになるのはとても大事なことだと思うが、だから中学を一つにするのは曖昧な考えだ。自分の子は中学を卒業してしまうが、この推計を見て子育て世代にとってとても不安になる。統合してもこれしかないのはもっと不安だ。自分の時は20人クラスで全校60人でも、部活は野球とバレーのみ、やりたいことはできなかった。だから合併したら自分の好きなことをやれるという意見は甘い考えだと思う。この数字みると統合しかないと思う面もあるが、今のままだとこの数字は統合しても少なくなっていく。この数字をいかに増やしていくかを考えた方がいい。山村留学や和合に来られた方の意見を聞き、数字を増やす事が重要だと思う。教育委員会は中学校統合一本で考えているが、中学校統合と新野小・阿南二中の小中一貫校と並行して考えていけないかと思う。
- 自分は一中で令和13年に60人で自分のころの半分になる。阿南が好きで地元に残って道場を初めた。阿南町の全地区へ毎週仕事で行き、保育園やおじいちゃんおばあちゃんのところへも行く。どこの地区もいい所があり好きだけど、残念なのは地域性の問題があり和合とか新野とか行きにくい。中学の頃、交流会があつて記憶しているが、新野は遠くで未知の地だった。今は15分くらいで行けるが町民にはまだ知られてなく、一つの町になれていないのを感じる。子どもが少なくなるのは寂しく感じる。私たちは一中へ行くのが当たり前だった。中学が無くなるのは寂しいが一緒にしないと、全地区の子どもを見ていて、このままだと子どもたちが寂しいと思う。新野の人が下の人にはわからないのは、入りにくい、行きにくいというのがあり、統合したことで新野に入っていくこともある。下の子どもが新野へ行ったり、新野の子が来たりして行き来をした方がいいと思う。自分が新野に居て中学が無くなると寂しいとは思いますが、今の現状を見ると一中・二中一緒になってもこれしかないから、子どもたちが一緒に町を盛り上げていく時代だと思うから、もっと町内が行き来できることを考え、ワン・チームにはまだ時間がかかる。その前に町がつぶれたらと心配もあるが、子どもたちも一緒に考えてほしい。
- 娘が表の中の一番少ない一桁の年代に娘がいる。新野へ嫁いで来て一人娘が地域の人に良くされて大きくなった。保育園でも小学校でも学年にこだわらず仲の良い新野の子たちだが、嫁ってきて自分も大きな学校出身でなく驚かなかったが、今一クラス平均5人くらいで驚いたのと、同性しかいないクラスや今小学校1年は1人です。娘も女3人男1人みんな仲が良く、新野のことが大好きな子どもたちで元気だが、阿南一中でも大規模校ではないが、学習面も大切ですが人とのコミュニケーション、人間として強くなっていくためには、ずっと同じメンバーで15歳までいくより、高校前の中学くらいで違う子どもたちとの関わりを持たせてやりたい。新野出身ではないし、新野の中の夫婦でも意見が違う方もいるだろうし、自分の行っていたところが無くなると悲しいと思うけど、子どもたちが巣立ってまた阿南町へ帰って来れるように、新野出身とか富草出身でなく、阿南町出身として帰って来れるよう、統合の話を進めてほしい。親として子が成人するまで責任があるので、あり方検討委員会が始まって以来、どうなるのかと毎日居る。説明会があつたりコメントを出したり、いつ町の方向が決めるのか親としてやきもきしているので、阿南町の子どもたちのために、早くまとめた意見を決めていただきたい。
- 今日の意見に対し感想を述べさせていただきたい。
生々しい意見を含めて頂いてありがたいと思う。一つは少人数が不安だというよりはっきり嫌

だとおっしゃられた方がおられた。こういう場で初めて聞いた意見で驚いた。率直で勇気ある発言だったと思う。それからコストの件で、検討にはコストに軸足を置いていないが、ある意味コストに軸足を置かずに話を進めることもできない。今教育はお金と比例するというのになりつつある。東大に入学した親の7割が年収1,000万円を超える時代です。逆に言うとお金をかけないと掛けないと良い教育ができないと言えないこともない。だから町の教育は決してそういうことではない。ただし率直に言って、中学が2つから1つになればコストパフォーマンスが出てきて、町の財政の負担軽減にはなる。教育を財政で論じることが私たちも避けたいと思うが、必ずそういう時はやって来るし、それを要素として考えざるを得ない時が必ず来ます。町の財政は教育だけでなく、全ての財政が健全に運営されていることが必要になる。それに私たちがお金以上にもっと懸念しているのが、中学の統合の問題が旧村意識の対立で議論されることをもっと懸念しています。それが一番嫌です。町の子どもたちを宝としてどうするという話をしたい。学校が無くなって地域が衰退するという議論もあるが、議論すべきはそこのか。という投げかけをいっしょにしたい。子どもたちの将来を考えた時、何があるべき姿なのか、そうしたことをあり方検討委員会の方たちは真剣に討議をしていただいた。参加された方から2名ほど意見を頂き、非常にありがたかったです。その人たちが統合ありきでない形でスタートして議論されたという発言で非常にありがたかったですし、その中でこれからのあり方について、小中だけでなく生涯教育とまで、また保護者としてどういう立場でものを考えるべきなのかというご指摘を頂いた。町にいる人・町で生まれた人が、お互いどのように影響し合って教育を考えていくか、それが町を考える『ワン・あなん』に繋がることなのかと感じた。いろんな見方・考え方、小中一貫とか義務教育校とがあるが、山村留学も手段としてある。1ターン・Uターン。口にすることは簡単だが、現実に関心を取り込んで活動に反映していくことは、非常に苦勞を伴う事で、携わっておられる方が何人もここにおられませんが、誰がどこまで何をやるかということを本気で考えて、方向を出していくことなんだろうと考えている。いろいろご意見を頂き参考になりました。ありがとうございました。

- パブリックコメントで意見を出したが、どこかに集約されて見当たらないので言うが、先ほどより大規模校・小規模校の話があり、それぞれ子どもに適正があると思って、二中を小規模の中学校として残し、町内から小規模校へ行きたいという子がいれば新野へ来て、新野の大規模校の方がいいという子に大下条に行くという。小規模・大規模に分かれて阿南町全体で好きな方に行くとしてみたらどうでしょうか。

それから、今どこまで決まっていって、どこまで議論の余地があって、最終的誰がどうやって結論付けるのかがわからなくてもう一度聞きたい。

答え ○ どういう内容について言うと、あり方検討委員会の答申を尊重して検討した結果ということで、保育園と小学校は現状維持でやって行く。中学校においては一中・二中は統合した方がいいということが結論。誰が判断してどういうふうにとということでは、二つの結論に対して、皆さんにご理解とご協力を頂きながら進めて行く。最終的には町長が出していただくことになる。

- ということは全体の考えは、もう決まっているという解釈か、まだ話し合える場があるのか、例えば議会だとか総合教育会議とかがどこかで行われて、話し合うということか。

答え ○ 議会はもちろん検討して頂いて、議会としての結論を出していただいて、それも町長の参考的なものになるものとなります。ここで決まったという解釈かについては、教育委員会の考え方と方向性であり、結論については私どもは言えないので、教育委員会の考え方と方向性は出しました。

- 教育委員会ではこれで揺るぎないものとして決まったということか。

答え ○ はい。 付け加えて言えば議会等で話し合われる機会はあるということ。

- 何かの話し合われる機会はあるということ。そして、各部署での話し合いの様子を町長が受け止めて、町長が最終的に判断をするという事でいいですか。

答え ○ そういうことでいいです。ただ町長との話し合いの中では、住民が主体なので住民がある程度のご理解が無いと、町長も判断しかねるということです。ですので意見交換をするということです。

- 具体的にいつまでに最終的な結論を出すという目安はついていないということでしょうか。

答え ○ 結構です。あいさつのところで申し上げたが、考え方として中学の複式はありえないという考えであります。

- 今の話では、検討委員会や教育委員会の結論は出た。あとは町長の判断だということ。それはおかしくないか。そんなに町長に負わせるのか。もうちょっと煮詰めてからでこれで押し付けるのは卑怯だ。それはおかしい。
- 今決定の手順を伺ったが、パブリックコメントにも書いた悔やまれる点で、阿南町の問題だけ一番の当事者は新野なので、統合について新野の方の意見をもっと聞いておくべきだったと反省を書いて、今でも思っている。阿南町を一つにという意見もありましたが、僕は旧村単位です。小さいながらも地方分権というのは大事ではないかと思う。最終的に町長が決定までの間に、新野の意見をもう一回まとめて一番当事者の新野の意見を、新野の方の責任と権限があると思うからとことん話し合っていて、自分のところはどうか話し合っていて表明する機会を、最終決定までにいれたらいいと思った。
- 今新野の人が当事者と言ったが、答申には一中が二中に統合とか、二中が一中に統合とかなかったもので、新野以外も当事者だと思う。あと日程とか流れで、今日のような意見交換会を丁寧に重ねていくことで、議会とか町長の判断が覆ることがあるのかと思う。今日の意見交換会にも託児を出してほしいと言ったが、叶わなかった。興味が無いから参加しないのではなく、参加できない状況の方もたくさんいると思う。今後そうしたことを含めて意見交換会を考えているか聞きたい。

答え ○ 今後の説明会・意見交換会は各地区で考えています。その中でどのようにするかは未定です。各地区へ出かけてご理解をいただけるよう意見交換会を考えている。

- 最終的に決定するのが町長なのに、なぜ町長がここにいないのか。町長もやることが色々あると思うが、これが予定されていればその日は予定を開けないといけないと思う。その点どうなんでしょうか。

答え ○ そういう考え方もあると思うが、今回は教育委員会の考え方と方向性という事で、町長にも話をして、ある程度納得していただいた。ただここへ来て町長が答えるということではなく、ワンクッション置いて、会議の内容を報告するが、その中で町長が考え、判断する材料になればいいという事である。

- 町長に話をすることだが、その前に新野地区へ来て説明会を持つという予定はあるか。

答え ○ 各地区の説明会はあります。

- それから町長と最終的に会うということでしょうか。

答え ○ この会議はすぐに報告し、地区ごとの会議も全部報告します。

- それと統合ありきのようで話を聞いてきたが、新野から来ればバスで30分かかることを考えれば、今新野に神原から小学校の子どもが来ている。そういう子どもは天龍村に学校があるのに地域性で新野に通い、中学まで卒業していく。こうして他町村へと出て行く人が増えることを考えたことがあるか。そういう考えをその地域で生活する上で身近で見えていくという親は籍

を移してでも出てしまう。それより阿南町として方策として、売木村や泰阜村などたくさんの子どもが来ているが、阿南町はそういうことは考えないのか。

答え ○ そういうことではなく並行して人口減少を防ぐための施策はやり、町として地域としてお願いをしていく。そういう考えは持っている。

- 阿南町のことだけ考えるのではなく、周りの市町村とも協力し合ってそういう関係を作っていくことが大切だと思う。新野から5分の売木村に出て行きたい人も出るかもしれない。ただ一つにすればいいんだということ言えば、新野の人にすれば「上がって来い。」ということにもなる。統合ありきでなく、まず人を増やす事をなぜ考えないか。周りはやっているのになぜ阿南町はしないのかというのが疑問だ。まずそこからスタートしてほしいと思う。
- 話し戻り、当事者ということが出てきたが、新野が当事者という言い方をしているが、子育てをしている僕らが当事者と言う考え方もあり、新野ひとくくりで当事者というのと、子育てをしている人が当事者と言うのと、全く違う方向性になる可能性もあるので、まさにこれから子育てをする人たちを一番の当事者と考えてほしい。これまでになぜそういう会議がされなかったかあるが、これからそういう会議をもって行ってほしい。
- この話は、町長は阿南町の統合は南部の近々の話題と大きな話題とクローズアップされてきたが、南部の町村との整合性はどうなっているかその推移を聞きたい。

答え ○ 平成25年6月4日から南部の教育懇談会が首長、教育長、職務代理の各町村の3者が集まって、年1回開かれる情報交換をする会議、今年は阿南町が当番で2月25日に予定されている。その中で各町村の状況を示し情報交換が行われる。新聞に出ていたが天龍村は一貫校でどうなるかとかがあるが、5町村集まって話し合っているが、去年の話し合いだと、もう少し様子を見ようというのが経過でした。

- 町長の考え方で我々が聞いているのは、阿南町の統合の問題で人口減少が進む中、南部5町村の問題が先だと聞いているが、その整合性はどうかということだ。なかなか理解が得られないので阿南町だけで進んでいると理解している。

答え ○ 最初は南部5町村の教育環境については、先ほどの会議で開いてやっていく中で、それぞれの町村は「もうちょっとそれぞれで考えて行こう」ということで、阿南町は喫緊の話題なので、教育問題を考えて行こうという事で『あり方検討委員会』が設けられたわけです。

- 5町村のやつは今後も進めて行くのか。

答え ○ 会議は進めて行くが、それが進展していくかどうかはわかりません。

- 子どもたちの様子を報告するが、少人数でも30人でも先生方は一生懸命授業等やっていると思う。ただ少人数のメリット・デメリットがあるので、かなり小学校同志・中学校同志で交流会を今まで以上に開いていただいている。その時の子どもたちの状況や5・6年生の元気塾で触れ合う子どもたちの表情は、生き生きしている。それはお伝えしたい。

【閉 会】

- まだまだ意見あろうかとは思いますが、予定時間が過ぎるまで真剣に貴重なご意見いただきまして、ありがとうございました。本日この辺で示させていただきます。教育長も言うておりましたが、各地区の意見交換会を催して参りますので、その折には大勢の方が来ていただいて話し合いをしていただきたいと思います。これにて意見交換会を終了させていただきます。ありがとうございました。